

第3章 国際社会に生きる日本人の自覚

1 日本人の精神風土

1 日本人の宗教観 (教科書 P. 75~78)

●成ってきた神 [p. 75]

神話=民族の発想の原型

┌ キリスト教の神と世界観→世界は唯一の神によって [] された
└ 日本神話 (『[]』) の神と世界観

→ 「いきおい・働き」によって神も世界も「[]」「成って」きた

↓

◎日本人の発想の原型

=すべての出来事を「おのずから」「成りゆく」ものととらえる

●日本人の精神風土 [p. 75]

思想形成←自然環境の影響 ([] 『風土』による分類)

「砂漠型」(西アジア) = 乾燥の中で自然と戦う

「牧場型」(ヨーロッパ) = 従順な自然を支配する

「[] (季節風) 型」(日本)

= 季節の変化・豊かなめぐみと自然災害の猛威が周期的に訪れる

→ 自然に対する [] 的・[] 的な性格が形成される

↓

◎世界の根底に「[]」の働きを感じとり、それと一体となって生きることを
求める発想が育てられる

●八百万神 [p. 76]

古代 = [] ←ふつうでない力をもつものすべてを信仰

事物それぞれに靈魂が宿ると見る []

豊かなめぐみとともに災厄をもたらす自然

→ 災厄は [] の所為とする

→ [] = 祭りによってめぐみの働きに転化

●神々の共存 [p. 77]

=絶対的な究極の神の不在 ↔ キリスト教

〈日本神話に登場する神〉

[], []

=国土や神々を生んだが、より上位の神々の意志による

[]

=最高位の太陽神とされながら、他の神々を祭る司祭者でもある

↓

◎全知全能の絶対的に超越した神はいない

→世界は神々によってではなく「おのずから」成る

●重層的文化 [p. 77]

=宗教の共存・重層

◎異質な宗教・文化←柔軟・積極的に受容

例：神棚と仏壇の共存 ([])

→日本人の思想形成の特徴